

特集：排水管洗浄

巻頭言

先月、新聞に「中国の高速鉄道 静かな座席拡充」と云った記事が掲載されていました。その記事を読んだ矢先、新幹線の中で大変複雑な気持ちになった出来事がありましたので、お話しします。

新聞記事の内容は、中国高速鉄道が座席での携帯電話の通話を禁じるほか、動画や音声コンテンツを視聴する際には、イヤホンの着用を求める静かな車内環境を整えた列車の運行を増やす、というものです。また車内放送の音量を50%以下にして、車内販売や案内を担当する乗務員の声量も控え目にして、使い捨ての耳栓まで提供し、さらに乗客には事前に「静音ルール」への同意を求めるとのこと。そんな静音列車の割合を高速鉄道の8割以上に増やす意向のようですが、日本での静かで心地よい新幹線を経験した中国鉄道の偉い人が、自分の国でもやりたいと思ったのでしょうか。同意まで得ないとできないことを日本では常識として出来るのですから誇らしいことだと思っていました。

しかしその記事を読んだ数日後、出張で新幹線に乗っていたのですが、こんな出来事がありました。それはある初老の男性が、携帯電話で大声で話していた40歳前後と思われる男性に「うるさい、静かにしろ」と注意したことで言い争いになっていました。幸い車掌さんが直ぐに来たので言い争いは沈静化したのですが、その後の車掌さんの言葉にきっと車内にいた人は「えっ」と思ったと思います。車掌さんが言い争いの原因を聞いたのに対し、初老の男性が「車内で携帯が禁止されているのに、こいつが大声で話しているから注意したんだ」と言ったところ車掌さんが「車内での携帯は禁止されていませんが」と言ったのです。初老の男性は「は」と少し大きめの声で、車内でも「え」と言った声が聞こえてきました。確かに中国のように「ルール」として同意書のように書かれているものを見たことはありませんが、通話を車内でしない事は常識で「使うならデッキで」と車内アナウンスもしていたはず。初老の男性は大変怪訝そうな顔をして、他の車両に移動してしまいました。

禁止されていないとはどういうことなのか。確かに以前は流れていた新幹線内の「通話はデッキで」と言ったアナウンスを聞かなくなった気がします。しかし、あの場で「禁止されていません」なんて言われたらじゃあどうすればいいのかとってしまいます。多くの若者や外国の人も乗る新幹線なのですから、またJRの様な半分は公の様な日本を代表する企業は、変に相手におもねる様な態度を取るのではなく、一貫した日本の常識的な考え方を伝える役割を担っているのではないのでしょうか。なんかこの対応は日本人にも外国の人にも違和感を与える対応だと思います。

なんか後味の悪い、日本の将来を悲観してしまう出来事でした。

(雅)

排水管洗浄

住宅、飲食店、食品工場、マンションなど、あらゆる建物に共通して存在する設備が「排水管」です。日常的に使用されているにもかかわらず、その内部の状態が確認される機会はほとんどありません。しかし、排水管の内部には、油脂や食品残渣などの汚れが徐々に蓄積し、悪臭や害虫の発生、詰まり、設備トラブルといった問題を引き起こす原因となります。これらのリスクを未然に防ぐために重要なのが「排水管洗浄」です。今回のエムテックインフォメーションでは、排水管のトラブルや洗浄方法、適切な管理のポイントについてご紹介します。

排水管トラブルが引き起こす影響

排水管トラブルの多くは、油脂や汚れの「経年蓄積」と「管理不足」によって発生します。排水管のトラブルには、悪臭や害虫の発生といった衛生面でのリスクや、排水詰まりや漏水といった設備面のリスクがあります。その他、クレームの増加（マンション等）、修繕費や緊急対応コストの増大、さらには管理品質や信頼性の低下といった経営面への影響が生じることもあります。排水管洗浄は、こうしたトラブルを未然に防ぎ、衛生環境と設備機能を維持するための重要なメンテナンスの一つです。

リスク	衛生面のリスク	設備面のリスク
主な影響	<ul style="list-style-type: none"> ・ 悪臭の発生 ・ 害虫の増殖（チョウバエ、ゴキブリ等） ・ 異物混入（飲食店や食品工場） ・ 微生物汚染（飲食店や食品工場） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 排水詰まりや逆流 ・ 排水管の腐食や劣化 ・ 漏水や設備故障
例	 <p>排水管内のゴキブリ</p>	 <p>排水管腐食による漏水（天井）</p>

高圧洗浄機による排水管洗浄



防音型高圧洗浄機

高圧洗浄機による方法は、高圧水で排水管内部の汚れを洗い流す、代表的な排水管洗浄の方法です。油脂や堆積物を効果的に除去し、詰まりや悪臭の原因を取り除きます。住宅からマンション、工場まで幅広い施設で採用され、薬剤を使用しないため環境負荷が少なく、安全性の高い洗浄方法です。高圧洗浄のホースは、斜め後方へと逆噴射する水流の推進力を利用して管内を移動し、内部に蓄積した汚れを強力で洗い流します。



排水管洗浄の効果

高圧洗浄機による排水管洗浄では、排水管に蓄積した汚れや詰まりを除去し、その効果を目で確認できる点が大きな特徴です。一度も排水管洗浄を実施したことのない住宅や飲食店では排水管が詰まって閉塞しかかっていることも多く、数十センチ以上もある油脂の塊が管内から出てくることも珍しくありません。こうした強固にこびり付いた蓄積汚れは市販の配管洗浄剤では十分に落とせないため、汚れを確実に除去するためには**定期的な排水管洗浄の実施**が重要となります。



袋状の汚れ

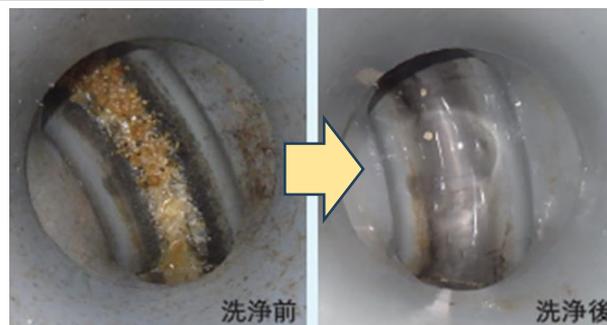


蓄積していた油脂の塊

に落とせないため、汚れを確実に除去するためには**定期的な排水管洗浄の実施**が重要となります。



流し台下の排水管汚れ



屋外排水柵の汚れ

建物別の洗浄場所と頻度

建物の用途や利用状況によって、排水管に蓄積する汚れの種類や蓄積しやすい箇所は異なります。住宅・マンション・食品工場・飲食店における汚れの特徴、洗浄場所、頻度の目安を以下に示します。なお、汚れの蓄積状況や使用状況によって、適切な洗浄頻度は異なるため、状況に応じた実施計画の策定が重要です。

	住宅 	マンション 	食品工場や飲食店 
汚れの特徴	<ul style="list-style-type: none"> 生活排水が主な原因 油脂、石けんカス、毛髪など 	<ul style="list-style-type: none"> 生活排水が主な原因 油脂、石けんカス、毛髪など 多数の住戸から排水が集中するため、共用排水管に汚れが蓄積しやすく、トラブルが発生すると複数住戸に影響が及ぶ可能性あり 	<ul style="list-style-type: none"> 食品由来の汚れが主な原因 油脂、食品残渣、粉体、汚泥など 取り扱う食品によっては短時間で汚れが蓄積するため、定期的な実施が重要
洗浄場所	<ul style="list-style-type: none"> 台所、浴室、シンク、洗濯機パン、トイレ、排水柵など 	<ul style="list-style-type: none"> 台所、浴室、シンク、洗濯機パン、トイレ、共用排水管、排水柵など 	<ul style="list-style-type: none"> シンク、床排水口、側溝、排水溝、トイレ、排水柵など
推奨される頻度の目安	<ul style="list-style-type: none"> 3～5年に1回 	<ul style="list-style-type: none"> 1年に1回 	<ul style="list-style-type: none"> 半年～1年に1回

※特定建築物の場合は法令で6ヶ月以内ごとに1回の実施が義務

工場・飲食店・住宅・マンションなどの排水管洗浄を実施しています。詳しくは動画をご覧ください。



害虫獣紹介

ツキノワグマ

日本の本州と四国に生息する、胸の白い三日月模様が特徴の中型のクマ。主に木の実や果実を食べる雑食性で、
 生態 昨年は人身被害の増加により世間を大きく騒がせました。今回は巷で話題のツキノワグマについて紹介します。

ツキノワグマはクマ科に属する中型のクマで体色は黒色で、比較的大きな丸い耳を持ち、胸には白色の三日月型の模様が見られるのが特徴です。体長は100～160cm、体高は60cm前後で体重約50～130kgでオスの方が体格は大きいです。身体能力が高く、短距離では時速50km程度で走ることができる他、前肢の筋力と鋭い爪により樹木や垂直に近い壁面を登ることができ、遊泳も可能です。食性は雑食性ですが、主に植物性のエサを利用します。春には桜の花や新芽、夏には果実やハチやアリなどの社会性昆虫、秋にはブナやドングリ、ヤマブドウなどの果実を多く摂取し、通常は冬眠中に摂食は行いません。自ら積極的に狩りをして獲物を捕らえることは少ないですが、動物の死骸を食べることがあります。冬眠前に重要なエサとなる木の実が不足すると、食物を求めて人里へ移動する傾向があり、近年では山中の凶作による食料不足や暖冬による冬眠時期の遅れ、人口減少による山の管理低下などが重なり、住宅地での出没や人身被害が増えています。

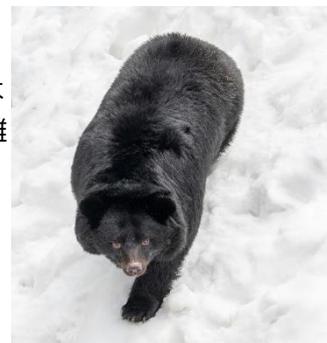


図 ツキノワグマ
Ursus thibetanus
 出典：くまぐま園

被害
 被害の中で最も深刻なのが人身被害で、山林での遭遇だけでなく、近年では住宅地や農地周辺で攻撃を受ける事例が増加しています。また、エサ不足により農作物にも被害を起こす可能性があり、果実や穀物、野菜、養蜂箱などの農作物への被害もしばしば報告されています。

対策
 接触機会を減らすために、山林に入る際に鈴や笛、ラジオなどで音を出し、人の存在を知らせることが有効で、これによりクマが自ら離れていく可能性が高まります。また、足跡や糞などの痕跡を発見した場合は、速やかにその場を離れることが重要です。住宅地周辺では、生ごみなどの誘引物を除去し、クマを近づけない環境づくりが大切です。遭遇した場合は、100m以上の距離を保ち、慌てて走ったり背を向けたりせず、落ち着いてゆっくり後退します。至近距離で危険が迫った際には、クマ撃退スプレーの使用が被害の軽減に有効とされています。

食中毒情報

今月は、件数・患者数ともにノロウイルスを原因とした食中毒が最も多く発生していました。ノロウイルス食中毒は今月もさらに増加傾向で、先月と比べて件数は約2.5倍に増えていました。そのうち、死亡者が出る事件が3件発生しています。いずれも、高齢者施設の給食が原因となっていました。抵抗力の下がっている高齢者、乳幼児、病気の人は、特に食中毒にかかりやすく、また重症化しやすいため注意が必要です。このような人に提供する食事は、健康な人に提供するものに比べて、食品の加熱や殺菌など、より管理の徹底が必要です。HACCP管理で、対象者が高齢者などになっている食品について、危害要因分析が十分できているか確認してみてください。

まだまだノロウイルス食中毒が発生しやすい状況は続きます。調理従事者を原因とした食中毒件数が多いため、日常的な健康チェック、ノロウイルス検査の実施継続による発生予防をお願いします。

全国食中毒発生状況 (1/15～2/15 新聞発表分等)

原因物質	件数	患者数
ノロウイルス	69	1379
カンピロバクター	4	22
ウエルシュ	3	89
寄生虫	3	3
不明・その他	7	108

『ひとつ、ふたつ・・・快適環境を生み出します』

MARUMA MITEC
 株式会社 マルマ エムテック衛生検査所
 メールアドレス：info@maruma-ec.co.jp

本社 / 〒430-0807 静岡県浜松市中央区佐藤 2-5-11

東京支店 / 〒194-0005 東京都町田市南町田 2-15-14

静岡支店 / 〒422-8046 静岡県静岡市駿河区中島 960-1

宇都宮支店 / 〒321-0139 栃木県宇都宮市若松原 2-2-8

岡崎支店 / 〒444-0802 愛知県岡崎市美合町字北屋敷 59-3-101

名古屋支店 / 〒496-0027 愛知県津島市津島北新開 234-2

大阪支店 / 〒555-0032 大阪府大阪市西淀川区大和田 3-5-6

福岡支店 / 〒812-0006 福岡県博多区上牟田 1-3-2